

ごあいさつ

学会へのご参加を歓迎申し上げます。

今回の学会では4つのポイントを考えました。

1. 従来のように、本学会の特徴である一般講演での十分な質疑応答の時間を確保すること。1演題に15分を割り当てましたが、可能な場合はセッションの終りに、10分ほどの総合質問、討論のための時間を設けたのもその意図からです。
2. 座長には、演者の講演を聴衆が聞きやすくすることに特にご配慮願いたい。たとえば、卓上マイクが離れていて、演者の音声小さい場合などは、講演中でも、「もっとマイクに近づけてお話しください」などと、聴衆の理解を第一とする環境を確保することをお願いしたいと思います。これは座長のご負担を増やすことになりませんが、同時に演者のご寛容を仰がなければならないことになり。これらにより、聴衆が講演内容をより良く理解し、共有し易いようにし、実り豊かな質疑・討論の時間を持つことができるようにすることを願います。
3. 学会員間の学術的交流促進を期しました。このために、ラウンドテーブルディスカッションを企画しました。もちろん、90分程度の時間で何ほどのできるかとも考えます。花粉分析、形態・分類、細胞・生理、養蜂・食品・その他および花粉症・空中花粉の各分野からなる本学会において、参加者数の関係から、所属会員の少ない2～3分野が一つになったグループ分けになる可能性があります。実りが得られるかについては、企画した大会長の責務も大きいですが、座長の先生方の手腕に負うところも大きいと考えます。そして、集まる学会員の皆様のご協力も欠くことができません。現在取り組んでいる研究の話題、目指すべきもの、施設間共同研究により他の近縁学会（海外の学会を含めて）を凌ぐ、より高度の研究へと進む糸口を友好裡に掴むことができれば大きな収穫です。
4. 「トムとジェリー仲良く喧嘩した」漫画が教育テレビで放送されていましたが、仲良く共同の研究進展を図ると共に、遠慮なく研究の不備を講演の場で指摘し合える、そのような緊張感をもった学術集会でありたいと願います。

ニューズレターNo.1でも記しましたが、浜松は新幹線の「ひかり」が1時間に1本とまるくらいで、学会員の皆さんは通り過ぎることの多い街かと思えます。この際に、休日も利用して浜松を花粉学的にも体験してください。

2017年8月18日 日本花粉学会第58回大会 大会長 宇佐神 篤